

令和4年1月28日

## 令和四年度東京都予算案の発表にあたって（談話）

東京都議会自由民主党幹事長 小 宮 あんり

東京都に、新型コロナウイルス感染症のまん延防止等重点措置が発出されている中で、令和4年度の東京都予算大綱の発表となりました。オミクロン株の感染力は強く、都内の1日あたり感染者数は1万7千を超え、増大する自宅療養者への支援充実が急務となるなど、感染動向は予断を許さない状況です。

この2年間、新型コロナウイルスは感染の拡大と収束を繰り返し、その特徴を変化させ長期化の様相を呈しています。そして、コロナ対策に奮闘している多くの医療関係者の皆様、経営危機に直面している中小事業者の方々、離職を余儀なくされた方、暮らしが変化する中、様々な困難に直面している高齢者や障害者の方々など、コロナ感染症の影響は都内全域に広く及んでいます。

そうした中、本日発表された令和4年度東京都予算案は、感染症の脅威を克服し、持続可能な都市への進化を実現し、社会変革に適応した制度や仕組みの抜本的見直しを進め、財政対応力を堅持するとともに、東京2020大会の取組をレガシーとして発展させていくことを基本に編成されたものです。

まずコロナ感染症対策です。大規模接種会場での集団接種を進め、重症者用病床の確保に努めるとともに、病床への負担を軽減するためのホテル等の宿泊施設の増設、無症状の方の療養施設設置、自宅療養する方への健康観察と生活面の支援など、コロナに感染された方への支援策を充実するとともに、医療関係者への支援、コロナ禍での生活や経済活動への支援など、社会全体で感染症対策を進めていくことが重要です。

そして、感染症対策とともに、災害対策や医療・福祉など都民の命と安全を守る施策の充実強化、東京の発展と社会活動を支える都市基盤整備、少子高齢化への対応、切れ目のない子育て支援、児童相談所体制の強化、ヤングケアラー対策など子供を育て命を守る対策、多様性に富んだ社会の実現に向けた取組、デジタル化や環境問題への対応など課題は山積しています。

こうした東京が抱える様々な課題を解決していくには、都内区市町村、首都圏各県そして国との緊密な連携、そしてなにより、都民の皆様のご理解とご協力が不可欠です。そのためには、今回予算計上された東京都各局の事業の目的、内容、想定される事業効果について、東京の実態を踏まえてしっかりと議論することで、都民の皆様にご理解いただき、納得して頂くことが必要です。

都議会自民党はこうした観点から、来月開会される第一回定例会、その後に続く予算特別委員会において、令和4年度予算が、東京の発展につながり、都民に役立つ予算となるよう予算審議に全力で臨んでまいります。